



間宮林蔵 渡樺出航の地の碑

Rinzo Mamiya had departed to Sakhalin for exploration in 1808.

間宮林蔵は、2度にわたって樺太を探検しました。第1回目は、1808年(文化5年)4月13日(新暦5月8日)に、松田伝十郎とともに宗谷を出発。シラヌシから東海岸を調査した後、西海岸のノテで伝十郎と合流。間宮海峡の存在を確認して、閏6月20日(新暦8月11日)にシラヌシから宗谷に戻りました。

第2回目の出発は、宗谷帰着から20日ほど後の7月13日(新暦9月3日)。単身で渡樺した林蔵は6人のアイヌを雇い、西海岸を北上。トンナイで一冬を過ごし海峡を確認した後、ノテから交易に向かうニブフの一行に同行して大陸のデレンに渡り、その年の晩秋に宗谷に戻りました。

林蔵の足跡は、村上貞助によって『北夷分界余話』『東緯地方紀行』としてまとめられ、1811年(文化8年)幕府に提出されました。この2冊は、「樺太編」「大陸編」というべきもので、前者には、樺太の地名や地勢・民俗が、後者には、清国の仮府(一時的な役所)が置かれていたデレンを中心に、アムール川下流での調査が報告されており、現在でも、北方アジアを知る貴重な資料となっています。

稚内市教育委員会

作品番号 : 29532607

作品タイトル : 間宮林蔵 渡樺出航の地

作家 : 田中 正秋

キャプション :

コレクション : OPO

ソース :

撮影地 : 北海道 稚内市

撮影年月日 : 2021/06/09

学術名 :

クレジット表記 : (c)Artefactory

モデルリリース : なし

プロパティリリース : なし

ピクセル数 : 6000px × 4000px

印刷サイズ : 43.5cm × 29cm

データサイズ : 3.9MByte

ファイル形式 : JPEG